

■『国際公式ルール麻雀（国際麻将・中国麻将）解説』おまけ本 咲-Saki- 22巻 の郝慧宇の手などを考察してみる

この冊子は、コミックス「咲-Saki-」の手牌を考察する本の第二段になります。

2014年の冬コミで、「咲-Saki-」の全国大会準決勝次鋒戦における郝慧宇の手作りを考察する冊子を作ったのですが、今回はその決勝戦バージョンになります。

決勝戦の次鋒戦は、21巻から始まり、22巻の途中で終了しておりますが、21巻内には郝慧宇の手牌が判る描写がなかったため、22巻のみ参考にしました。

なお、この冊子では中国麻雀でなく「中国麻将」と呼ばさせていただきます。

目次

- p.1. 表紙/目次/おことわり
- p.2 郝慧宇の手牌一覧
- p.4 郝慧宇の各手牌の解説
- p.10 他人の和了を中国麻将で考えてみた
- p.12 あとがき／おくづけ

●おことわり

その1: 麻雀を知っている人向けです。中国麻将を知っているとさらに楽しめます。

その2: 漫画の中で確認できる状況(手牌、捨牌)が限定されるため、考察には予想と想像と創作を元に展開しております。

その3: 打ち筋や捨牌選択については、個人の感覚に基づいたものですので、一般的ではない可能性があります。

その4: この冊子では、株式会社スクエア・エニックス様発行のコミックス「咲-Saki- 22巻」から場面・内容を引用しております。

その5: この冊子はコミケ終了後一定期間後に、ホームページで公開予定です。

以上、ご了承下さい。

■ 郝慧宇の手牌一覧

まずは、作品中に登場した郝慧宇の手牌と、中国麻將のメイン役を紹介します。
全ての役を含めた詳しい解説と打ち筋については、あとのページで行います。

次鋒戦前半戦の席順は以下の通り

起家： 阿知賀 松実宥
南家： 清澄 染谷まこ
西家： 白糸台 弘世董
北家： 臨海 郝慧宇

・8 ページ(東二局 1 本場)

 (三暗刻・三色三節高の聴牌)

・42 ページ(東四局)

 ツモ  (一色三歩高)

・44 ページ(東四局 1 本場)

 ロン  (三色三歩高、全帯五)

・112 ページ(南二局)

 ロン  (全双刻)

・115 ページ(南三局)

 ツモ  (全中、全帯五、三色三同順)

・119 ページ(南四局)

 ロン  (1 ~ 2 点役の複合(8 点)の和了)

・128 ページ(南四局 1 本場)

 ツモ  (全中、三色三同順)

・132 ページ(南四局 2 本場)

 ロン  (中国麻將では和了点数不足)

■ 郝慧宇の各手牌の解説

● 8 ページ(東二局 1 本場)



染谷まこが、断么を確定させる 𠄎 を切らずに上がりきった局です。
もし、𠄎 をロン上がりできていた場合は、対々和・三暗刻・ドラ 2 の跳満でした。

中国麻将では、以下の役になります。

- 三暗刻: 16 点
 - 三色三節高(3 色で1つずれの刻子): 8 点
 - 碰碰和(対々和): 6 点
 - 門前清(門前聴牌のロン上がり): 2 点
 - 么九刻(オタ風や1・9牌の刻子): 1 点
- 計 33 点

ツモアガリであれば、四暗刻(64 点役)になります。四暗刻・三色三節高・不求人(門前ツモ・4 点)で 76 点役です。𠄎 ツモだと么九刻もつき、77 点役です。

● 42 ページ(東四局)



役無し三門張(𠄎 𠄎 𠄎 待ち)をツモ上がりする場面です。
役は、門前自摸和、ドラ 2、赤 1。符跳ねして親の満貫、4000 オールです。

中国麻将では以下の役になります。

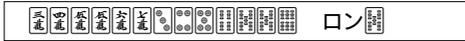
- 一色三歩高(同色で 1 つずれ、または 2 つずれの 3 組の順子): 16 点
 - 不求人(門前自摸和): 4 点
 - 么九刻(オタ風や1・9牌の刻子): 1 点
 - 无字(字牌無し): 1 点
- 計 22 点

なお、𠄎 や 𠄎 では、ツモ上がりでも中国麻将でも点数不足で上がれません。

役は、不求人(4 点)、无字(1 点)、么九刻(1 点)、連六(数字が連続する 2 組の順子、1 点)で、7 点しかなく、中国麻将の和了条件の 8 点に足りません。

𠄎 なら、出上がりもできますが、不求人が門前清になり役の点数が 2 点下がります。

●44 ページ(東四局 1 本場)



郝慧宇が弘世董から出上がり。
親の断么ドラ 1 で 3900 は 4200 の和了となった場面です。

中国麻将では以下の役になります。

- 全帯五(4 面子と雀頭に 5 を含む手):16 点
 - 三色三步高(3 色で 1 つずつずれた順子):6 点
 - 平和(数牌の順子と雀頭だけの手):2 点
 - 門前清(門前聴牌のロン上がり):2 点
 - 喜相逢(いわゆる二色同順):1 点
 - 坎張(カンチャン待ち、単調将:単騎待ちでも可):1 点
- 計 28 点

●112 ページ(南二局)

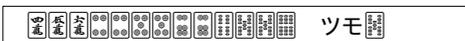


郝慧宇が松実宥から出上がり、断么・対々和の 3900 点を和了した場面です。

中国麻将では以下の役となります。他の複合役はありません。

- 全双刻(2468 の数牌のみによる対々和):24 点
- 計 24 点

●115 ページ(南三局)



日本麻雀では、門前自摸和・三色同順・一盃口・断么・ドラ1の跳満の手です。

中国麻将では以下の役となります。

- 全中(数牌の4, 5, 6のみを使った手):24 点
 - 全帯五(4 面子と雀頭に 5 を含む手):16 点
 - 三色三同順(三色同順):8 点
 - 不求人(門前自摸和):4 点
 - 断么(日本麻雀の断么と同じ):2 点
 - 平和(数牌の順子と雀頭だけの手):2 点
 - 一般高(日本麻雀の一盃口):1 点
 - 坎張(カンチャン待ち、単調将:単騎待ちでも可):1 点
- 計 58 点

また、 をツモした場合ですが、これは中国麻将ルールでも和了できます。

参考図:  ツモ 

中国麻将の役は以下になります。

不求人(門前自摸和):4点

平和(数牌の順子と雀頭だけの手):2点

断幺(日本麻雀の断幺と同じ):2点

喜相逢(いわゆる、二色同順):1点

計9点

なお、 の出上がりでは、中国麻将ルールでは点数不足で和了できません。

さて、ここからは、なぜ郝慧宇は中国麻将の重要な役「三色三步高」を避け、待ちを狭めたカンチャンに受けたのか考察してみます。

まず前提ですが、郝慧宇は中国麻将の和了形を含んだ形で上がることを重視しているということです。中国麻将的には和了できない手も上がっていますが、中国麻将の和了形を意識することで自分にとって有利な状況にしていることは間違いないでしょう。

実際に直前の南二局、南三局は連続して中国麻将役を含んだ上がりをしています。

オースの親番でもこの流れを手放したくないと思っていたはずです。

問題なるのは、両面待ちで聴牌して他家が  を捨てたときを考慮したと予想します。

もちろん、日本麻雀ルールなら  でも  でも和了でき、役に差はありません。

しかし中国麻将で考えると役の合計点数が不足しており、出上がりできません。

他家の捨てた  は見逃し、 が出るのを待つ、もしくはツモ上がりを狙うことも考えられますが、 が捨てられた同順に  が出れば、フリテンで上がりを逃すことも考えられます。

そのように考えて、和了牌が出れば中国麻将的にも和了できる聴牌形である、カンチャン待ちにしたというように考えられそうです。

郝慧宇であれば、高めをさくっとツモってきそうな気もしますが、場的にその猶予が厳しい状況だったのかも知れません。

以上が考えた理由としてはかなり苦しいですね。

しかし、これくらいこじつけないと納得できる理由を思いつけませんでした。

以上が次鋒戦前半戦。

これ以外に、郝慧宇の上がり が 8 回あり、和了は全部で 16 回。

うち、中国麻將的にも和了できる形は 10 回でした。

郝慧宇以外で中国麻將の高めの役を上がったのは松実宥でした。

南一局で「全帯五」という難しめの手を自摸和了しています。

赤い牌として赤ドラがあるルールだと、松実宥なら得意にできそうな役ですね。

では、次鋒戦後半戦について。

●166 ページ 染谷まこ  ツモ 
混一色(6)、箭刻(2)、自摸(1)、老少副(1)、坎張(1) 計 11 点

●171 ページ 弘世堇   
箭刻(2)、四帰一(2)、
※手牌の  は、 かもしれませんが、役と点数に違いなし 計 4 点

●182 ページ 染谷まこ  ツモ 
七対(24)、不求人(4)、缺一門(1) 計 29 点

●184 ページ 弘世堇 手牌不明

●186 ページ 弘世堇  
混幺九(32)、七対(24)、五門齊(6) 計 62 点

●192 ページ 染谷まこ  ツモ 
緑一色(64)、混一色(8)、自摸(1)、一般高(1) 計 74 点

●195 ページ 松実宥 手牌不明
※点数状況的にここで跳満をツモっていると考えられます

後半戦は、郝慧宇が 4 回上がっているのです、和了数は計 11 回でした。

郝慧宇以外が和了した中国麻將らしい役は、弘世堇の「五門齊(萬子・索子・筒子・風牌・三元牌を含んだ手)」くらいではなかったでしょうか？

■あとがき

こんにちは、まいさんと申します。

このたびは、当サークルの本を手にとっていただきありがとうございます。

久しぶりのコミケ、新刊は7年ぶりに「咲」の郝慧宇に関する本になります。

前回は準決勝で今回は決勝、しかも前回はコミックス発売1年後に仕立てたので、実際には準決勝から決勝まで連載が8年ほどかかっていることに。

「咲」は連載や進行が遅いというのは有名でしたが、思った以上にスローペースですね。

実際には途中で5位決定戦などを挟んでいるから、準決と決勝が連続した展開ではないのですが。

私としては、2年ぶりのコミケでちょうどいいネタができたなという印象です。

なお、メインの国際麻将(中国麻将)本は、在庫が切れるまで新刊無しかなも。

今年の春に、公式(<http://www.mindmahjong.com>)のルールブックが改訂されていたのですが、見た感じでは改定はなく、言語ごとにページを分けたくらいの変更しかないようでした。

それだけでなく、最近はあまり国際麻将の動きが見えない状況です。

次の新刊を作るとなると、同様な国際麻将のルール本なのか、別の中国麻将関連の本なのか、それとも全く別ジャンルの本になるのか、判らないですね。

それでは、機会がありましたら次のコミケでお会いしましょう。

奥付 『国際公式ルール麻雀(国際麻将・中国麻将)解説』おまけ本
咲-Saki- 22巻 の郝慧宇の手などを考察してみる

発行	2021年12月30日(コミックマーケット99)
発行者	まいさんの日記
作成	まいさん(ntd76528@biglobe.ne.jp)
Twitter	@maisan_t
WEBサイト	https://maisan.hatenablog.com/ http://www.green.dti.ne.jp/maisan/